



進路だより

令和3年度 第6号
令和4年 1月24日
島根県立大東高等学校
進路指導部 発行

速報:今年1月の大学入学共通テストの結果について

(1) 各科目平均点の推移と前年との比較

○ 総合の平均点は文系・理系ともに平均点は大幅にダウン。

右の表中の各科目の平均点は大学入試センターの発表による、100点満点に換算した値です。2020年度までは大学入試センター試験、2021年度から大学入学共通テスト(以下「共通テスト」)です。また、900点満点の数値は河合塾の推定値で、今年(2022)の平均点は大学入試センターが1/21(金)に発表した「中間集計その2」です。

教科・科目名	(満点)	平均点(100点満点に換算)					
		2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	前年差	
国語	(200)	60.77	59.66	58.75	55.12	-3.63	
地理歴史	世界史B	(100)	65.36	62.97	63.49	65.83	2.34
	日本史B	(100)	63.54	65.45	64.26	52.81	-11.45
地理B	(100)	62.03	66.35	60.06	58.97	-1.09	
公民	現代社会	(100)	56.76	57.30	58.40	60.83	2.43
	政治・経済	(100)	56.24	53.75	57.03	56.79	-0.24
	倫理・政経	(100)	64.22	66.51	69.26	69.73	0.47
数学①	数学I・A	(100)	59.68	51.88	57.68	37.96	-19.72
数学②	数学II・B	(100)	53.21	49.03	59.93	43.06	-16.87
理科①	物理基礎	(50)	61.16	66.58	75.10	60.80	-14.30
	化学基礎	(50)	62.44	56.40	49.30	55.46	6.16
	生物基礎	(50)	61.98	64.20	58.34	47.80	-10.54
理科②	物理	(100)	56.94	60.68	62.36	60.72	-1.64
	化学	(100)	54.67	54.79	57.59	47.63	-9.96
	生物	(100)	62.89	57.56	72.64	48.81	-23.83
英語	リーディング	(100)	61.65	58.15	58.80	61.81	3.01
	リスニング	(100)	62.84	57.56	56.16	59.45	3.29
7科目文系型平均点	(900)	581	559	564	520	-44	
7科目理系型平均点	(900)	584	564	581	523	-58	

7科目文系型: 国(200)・地公(2科目で200)・数(2科目で200)・理(100)・英(200)の900点満点
 7科目理系型: 国(200)・地公(1科目で100)・数(2科目で200)・理(200)・英(200)の900点満点
 ※英語はリーディング(筆記) + リスニングの2科目で200点。
 ※理科は、文系: 「理科①2科目(Aパターン)」 or 「理科②1科目(Bパターン)」で100点満点
 理系: 「理科①2科目+理科②1科目(Cパターン)」 or 「理科②2科目(Dパターン)」で200点満点

(2) 2022年度大学入学共通テストの分析

※以下のデータや図はすべて河合塾によるもので、許可を得て転載しています。平均点は河合塾の集計に基づくもので、(1)の大学入試センターが発表した中間発表の平均点(全受験生分)や、他社が発表しているデータとは異なる場合があります。

① 出題トピック

- ・「知識の理解を問う問題、思考力・判断力・表現力を発揮して解く必要がある問題を重視」、「学習の過程を意識した問題の場面設定を重視」といった共通テストの特徴的な出題傾向は継続。
- ・会話文や複数資料の読み取りだけでなく、新しい問い方で正しく理解しているか、解答の方針を立てることができるかを測る問題が出題された。
- ・一方、従来のセンター試験と同様の問題も出題され、学力の土台となる知識・技能の習得、鍛錬も必要な出題がみられた。
- ・数学はI・A、II・Bともに難化。

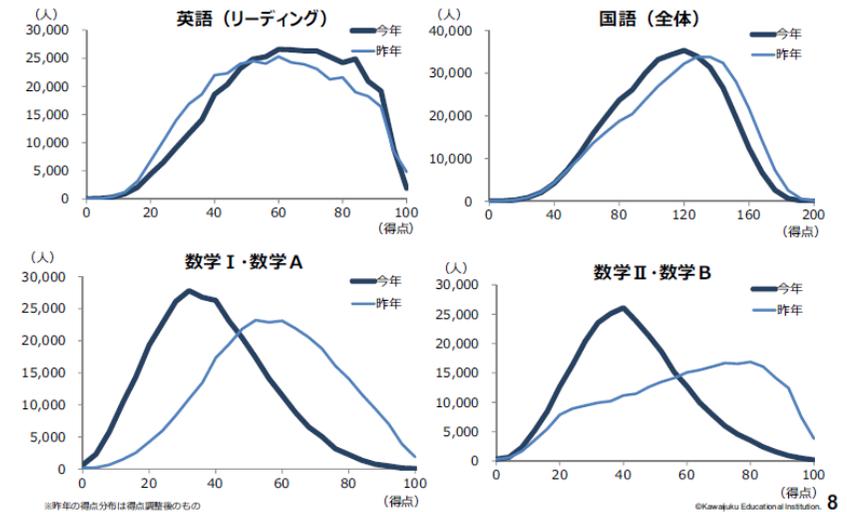
② 主要3教科の度数分布と平均点について

- ▼国語: 現代文の平均点は昨年とほぼ同じであったが、古文が難化したため、前年より平均点が約7点ダウン。
- ▼英語: リーディング、リスニングともに平均点が約3点アップ。
- ▼数学I・A: 平均点が約19点ダウン。目新しい問題が多く、解法の方針を立てるところでつまづいた。また、単元をまたいだ融合問題が出題され、高い思考力が必要とされた。
- ▼数学II・B: 平均点が約17点ダウン。問題文が長くなり(行数で昨年の1.4倍)、読解に時間がかかった。また、数学的な問題解決の過程を重視した出題が多かった。

2022年度共通テストの概況



【共通テストリサーチ】主要科目の得点分布



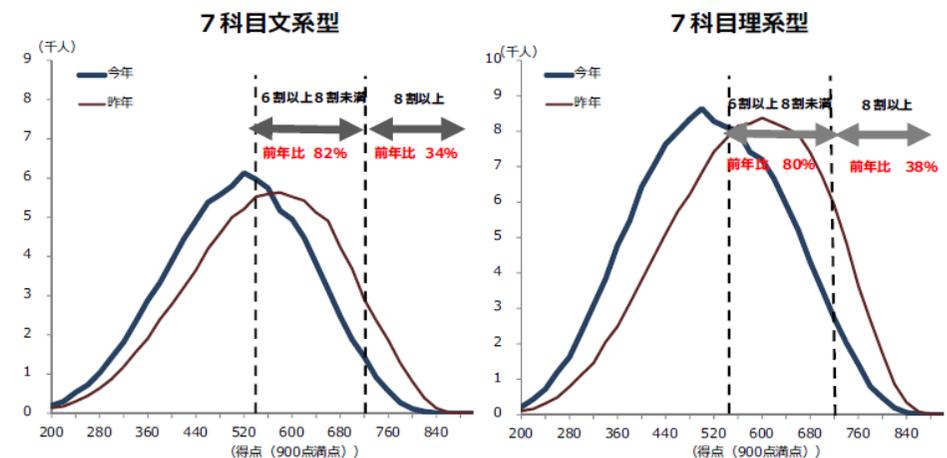
③ 5教科7科目型(900点満点)について

- ▼文系: 昨年に比べて多くの科目で平均点がダウンしたため、全体としての平均点が-44.6点となった。得点率が8割以上の層(720点以上の層)が前年比34%に大幅に減少し、6割以上8割未満の層(540~720点の層)も同82%に減少した。
- ▼理系: 文系同様、昨年に比べて多くの科目で平均点がダウンしたため、全体としての平均点が-57.8点となり、文系よりもさらに下がった。得点率が8割以上の層(720点以上の層)が前年比38%に大幅に減少し、6割以上8割未満の層(540~720点の層)も同80%に減少した。

2022年度共通テストの概況



【共通テストリサーチ】7科目受験者の得点分布



(3) 国公立大学の主な志望動向について

①全体概況 (グラフ内の数値は出願予定者の前年比 (%), 「地区別」「大学グループ別」は前期日程で集計。)

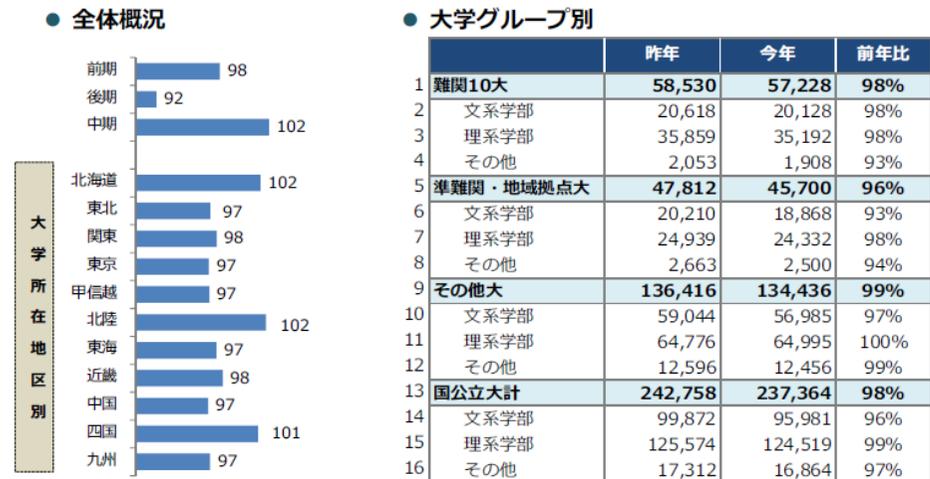
平均点ダウンにより、国公立大学の出願を断念する受験生が増加。特にボーダーラインが上がる後期日程で顕著。私立大学専願へ切り替える受験生が増加して、都市部の国公立大学では志願者が減少。

難関10大学の志願者は前年比98%と減少幅は小さいが、平均点ダウンの影響で準難関・地方拠点大の減少幅が大きい。中国地区の国立大学は、島根大学前年比107%, 鳥取大学同93%, 岡山大学同92%, 広島大学同101%, 山口大学同99%

共通テストリサーチからみる志望動向



国公立大の志望動向 (全体概況)



※難関10大: 旧帝大・東工・一橋・神戸, 準難関・地方拠点大: 筑波・千葉・横国・新潟・金沢・岡山・広島・熊本・東京都立・大阪公立(大阪公立のデータは大阪府立の合算)
 ※文系: 文・人文, 社会・国際, 法・政治, 経済・経営, 商, 教育
 理系: 理, 工, 農, 医療
 その他: 生活科学, 芸術・スポーツ科学, 学際

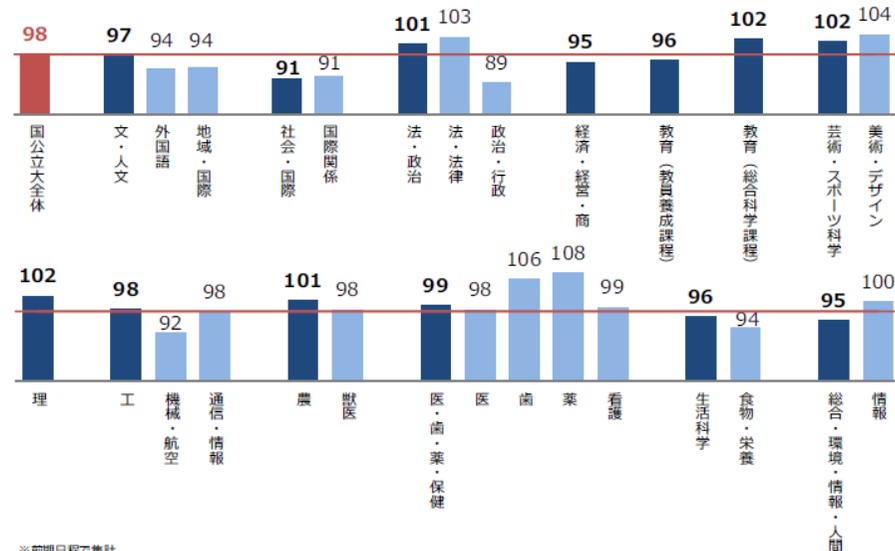
②学部系統別の状況 (前期日程で集計。グラフ内の数値は出願予定者の前年比 (%). 濃い色は学部系統を, その右側の薄い色は系統内の特徴ある分野 (抜粋) を示す。)

①全体概況の前期日程全体での前年比 98%を基準にすると, 文低理高が鮮明。就職に直結する資格が取れる系統に人気集中している。

共通テストリサーチからみる志望動向



国公立大の系統別の状況 - 文低理高、就職関連の分野に集まる傾向



(4) 共通テスト利用私立大学の志望動向について

①全体概況 (グラフ内の数値は出願予定者の前年比 (%), 「大学所在地別」は延べ志望者数で集計。)

私立大学の共通テスト利用入試を出願予定の志願者数は、全体で前年比98%とやや減少した。共通テストの平均点ダウンによる影響で、私立大学の入試の中で最もボーダーラインが上がる方式である共通テストのみで合否を決定する方式の出願を断念する受験生が増加したものと考えられる。

難易度別の志望動向を見ると、ボーダー得点率80%以上の大学が前年比91%に減少し、受験生の安全志向が顕著に表れている。

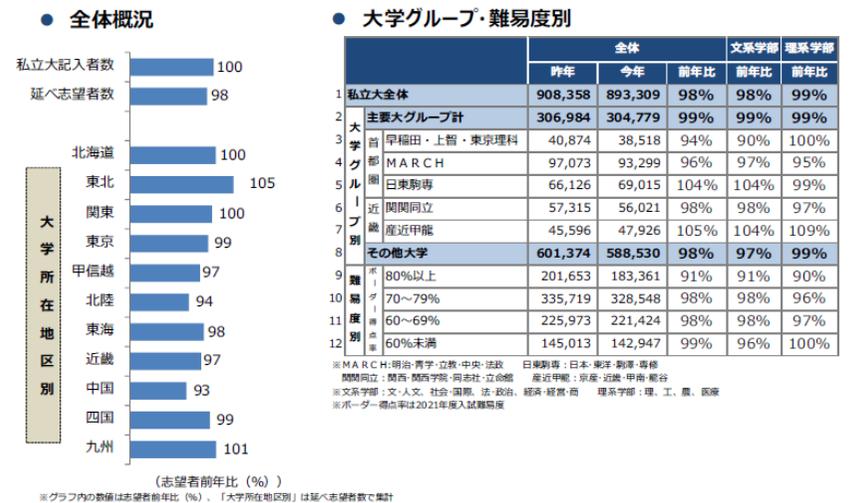
②学部系統別の志願状況

左記の国公立大学の学部系統別の状況とほぼ同じで、就職を意識した系統選びが続いている。国公立大学の志願状況と異なる系統は、文・人文の地域・国際(前年比102%), 農の獣医(同106%), 生活科学の食物・栄養(同105%)であり、国公立大学出願を断念した志願者が流入したものと考えられる。

共通テストリサーチからみる志望動向



共通テスト利用私立大の志望動向 (全体概況)



(4) 志望動向のまとめ

①共通テストの得点状況

次の表のように、文系・理系ともにすべての得点率でボーダーラインは大幅ダウン。

ボーダーラインの変動状況 (前年差の平均)

ボーダー得点率	国公立大 (前期日程)												私立大 (共通テスト方式)											
	文・人文	社会・国際	法・政治	経済系	教育	理	工	農	医療	生活科学	芸術・スポーツ	学際	文・人文	社会・国際	法・政治	経済系	理	工	農	医療	生活科学	芸術・スポーツ	学際	
全体	-4.5	-3.9	-4.8	-5.1	-5.1	-5.9	-5.9	-6.6	-6.0	-6.5	-2.4	-5.4	-1.6	-1.4	-0.5	-1.7	-7.3	-5.7	-5.6	-4.2	-2.4	-0.9	-3.3	
80%以上	-4.7	-4.1	-6.3	-6.9	-10.0	-7.0	-5.9	-7.1	-5.8	-8.0	-2.5	-5.4	-3.3	-2.7	-3.1	-3.9	-9.6	-8.4	-13.1	-7.6	-11.6	-3.5	-4.6	
70%~79%	-4.6	-4.5	-5.2	-5.4	-6.5	-6.5	-6.3	-7.6	-7.2	-6.5	-5.5	-6.1	-2.6	-2.4	-1.8	-2.9	-7.7	-7.1	-8.6	-7.6	-5.7	-2.5	-4.2	
60%~69%	-4.2	-3.8	-3.8	-4.5	-5.6	-5.7	-6.3	-8.2	-6.5	-6.7	-2.8	-5.9	-1.5	-1.1	+1.2	-1.9	-7.4	-5.6	-5.1	-5.1	-2.7	-0.5	-2.8	
60%未満	-2.8	-2.6	-7.0	-4.6	-3.1	-4.8	-4.9	-3.7	-1.0	-6.0	+0.1	-1.2	+0.5	+0.2	+1.5	+0.6	-3.9	-3.1	-0.7	-1.7	+0.2	+0.2	-0.8	

②国公立大学・共通テスト利用私立大学の動向 ... 受験生の安全志向が鮮明に

- 共通テスト平均点ダウンにより、慎重な動きになり、安全志向が強まっている。理系が人気、就職を意識した系統、特に法、情報、資格系分野の人気が高まるなど、学部系統の人気が変化した。また、医→歯・薬など、難関系統から他系統へ志願者の流出がみられた。理工系は難易度に幅のある工学系に志願者が集まっている。
- 難関大では、極端な志願者減はみられなかったものの、大学内・学部内の難易度が低い募集区分に志願者が集中。その他の大学では、①共通テスト少数科目で受験可能、②前年低倍率入試、③難易度の低い学部・学科、の3つに志願者が集中。また、数学2科目の平均点ダウンにより、共通テストの数学を利用しない大学の系統の志願者が増加。
- 今年度も、昨年度と同様に中国・四国等、地方を中心に地元志向が強まっている。新型コロナウイルス感染症の影響もその原因の一つと考えられる。